

第30回工産会 ボウリングフェスティバルのご案内

(同時開催:東京商工会議所中野支部会員交流ボウリング大会)

前回平成27年10月2日(金)に開催いたしました第29回ボウリングフェスティバルは、各加盟事業所の御協力を得まして、楽しく皆様に喜んでいただくことが出来ました。

今年度も東京商工会議所中野支部と共催で前回同様に充実したフェスティバルを企画いたしましたので、奮ってご参加下さいますようお願いしています。

主催：中野工業産業協会 会長 溝口 秀二
事業研修委員長 宮島 茂明
東京商工会議所中野支部 会長 麻沼 雅海

協賛：中野工業産業協会 加盟事業所

日時：平成28年9月27日(火)

場所：サンプラザボウル TEL：3388-5656(直通)

時間：6:00 集合 / 6:30 競技開始

会費：無料(貸靴代¥300は自己負担願います)

参加資格：中野工業産業協会および東京商工会議所中野支部加盟事業者、並びに中野区諸団体

締切：9月2日(金)といたしますが、応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。

FAX受信順に受付いたしますので、別紙申込書に必要事項をご記入の上お早めにお申し込み下さい。

協賛の：前回同様、加盟事業所より参加された方々への賞品の協賛をお願いいたしますと存じます
お願いので、各事業所として適当と思われる品物がございましたら、協賛品の品数、個数、市価をご記入の上、参加申込書に添えてご連絡ください。(尚、ご提供の有無はご自由です。)

競技要項：(1)14レーン使用 1レーン1事業所5名登録で、2ゲーム行います。

※5名に満たない事業所でもご参加いただけます。

※1企業から複数チームの出場・複数事業所による合同チームもOK

(2)競技内容 個人戦及び団体戦(各事業所毎のアベレージ)

(3)表彰 男子の部/女子の部：各優勝・準優勝・3位・ブービー賞他
団体戦：優勝・準優勝他

★東京商工会議所会員事業所の上位2チームは、2月に行われる会頭杯の出場権が得られます。

【事務局だより】

- ◆ 中野工業産業協会では、メールマガジンを発行しております。
会員事業主の皆様のお手元に確実にメールマガジンをお送りできますよう、メールアドレスを事務局までお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。
- ◆ 8月12日(金)から16日(火)まで、事務局を夏期休業日とさせていただきます。
ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

中野工業産業協会ホームページ <http://kousankai-nakano.jp/>

中野工業産業協会

会 報

No.185(平成28年8月10日)

中野工業産業協会

会長 溝口 秀二
〒165-0026 中野区新井1-9-1

中野区立商工会館内

TEL 03(3319)0231

FAX 03(5345)7335

ごあいさつ

会長 溝口 秀二



一昨年6月に就任して以来、まる2年が経過しました。

工産会は、中野にその昔多く存在したモノづくり企業の集団として、中野の産業振興、中野の発展のために力を合わせてきたことがこの会のはじまりでしたが、いまでは、会員企業の事業内容も大きく変わってきており、会の活動内容も変化を要求されています。会員数も300社以上だったこともありましたが、現在では、105社まで減少しています。

工産会が魅力ある会となるために、どのように活動すべきか、また逼迫している

財務状態をどのようにして改善していくかについて、今後「組織改革委員会」で議論を重ねて行きます。

昨年は工産会の独自性のある活動の試みとして、以下のテーマについて、

- ①中野駅周辺地区計画に関する知的支援
- ②地区詳細計画、建替えへのモデルエリアでのケーススタディ
- ③老朽建物(マンションや工場など)の建替えを阻害する諸要因の検討と改善策の提案
- ④良好な都市環境整備や防災対策、景観形成を行うための公開空地や緑地軸の設定等を前提とした基準容積率の緩和策及び延焼防止等を前提とした基準建蔽率の緩和策の提案

など都市計画の専門家である、明治大学都市建築デザイン研究室の小林先生を顧問に迎え、検討していただきました。

昨年度はこの中でも緊急を要する「①中野駅周辺地区計画に関する知的支援」に集中することにしました。その成果は、工産会を含む中野経済5団体で構成され、高山副会長が代表幹事を務める、「これからの中野のまちづくりを考える会」より、「これからの中野のまちづくり」への提言書という形で3月19日に中野区長、区議会議長へ手渡されました。

本年も、先生との顧問契約を継続し「区内の産業振興・企業経営支援の見地に立って、会員企業が抱えている問題点を調査・分析し、その解決改善に向けての方向性を示す」というテーマを中心に検討をお願いしたいと思います。顧問契約の費用がおおよそ130万円必要ですが、会の財政状況を考えると全額を特別会費で賄う必要があります。今後、特別会費や過去の財産に頼らずに運営して行くためには、会員数の増加、会費収入の増加を図る必要があります。

最近の工産会の変化と問題点についてのご報告を含めながら、会長の挨拶とさせていただきます。

第35回 通常総会の報告

平成28年6月8日(水)West53rd日本閣で、午後5時45分から会員24名、委任状42名(会員数105名)で、総会が行われた。

総会に先立ち、午後4時15分から石井大輔中野駅周辺計画担当副参事より「中野の統計データから読み解く中野のまちづくり」と題し講演会が開かれた。

総会は、溝口会長挨拶のあと、議長選出及び議事録署名人の選出(鳥居憲夫氏、内藤亘氏)を行い、中山副会長が27年度の事業報告。佐々木副会長から、収支明細、貸借対照表が説明された。



引き続き矢澤監事より監査報告があり満場の拍手によって承認可決した。剰余金処分案は、議長により次年度へ繰り越したい旨提案があり承認した。

次に鈴木照男会計理事より資料に基づき平成27年度特別会計及び労働保険事務組合の労働保険料収入又国庫納付結果を説明し、安達監査役より、監査報告を行い、承認可決した。また、28年度事業計画案を中山副会長、予算案を佐々木副会長から説明され、満場の拍手により承認可決された。また、事務局長から、特定個人情報(マイナンバー制度)の制定により、規約の一部を変更する旨提案(それに対応する契約等)がされ承認し、役員改選では溝口会長、他役員の発表が承認され佐藤副会長の閉会の言葉で総会を終了した。

引き続き午後6時30分から鳥居副会長の司会で開かれ、溝口会長挨拶と来賓の田中大輔中野区長、東京商工会議所石井副会頭、舟久保東京工業団体連合会会長からご祝辞をいただき、鈴木副会長の乾杯で宴会に入り、松本文明内閣府副大臣から熊本の地震について話があり、高山副会長の中締めで第35回通常総会及び懇親会が予定通り終了した。

平成27年度事業報告

主な事業(要約)

- 1.「新年賀詞交換会」 中野区経済4団体共催(平成28年1月)
- 2.「総会」 第35回総会開催「West53日本閣」
- 3.「理事会」 年2回開催
- 4.「役員会」 年8回開催
- 5.「組織改革委員会」 年2回開催
- 6.「広報委員会」 年5回開催
- 7.「事業委員会」 年3回開催
- 8.「労働保険料」 第1～第3期国庫納付完了
- 9.「区長との懇談会」 経済4団体会長との朝会(年2回開催)
- 10.「講演会」 年5回開催
- 11.「要望書提出」 中野区長、中野区議会議長に対して
国(自由民主党)東京都(東京都産業労働局)に対して
- 12.「協賛・共催・後援」 年9回

平成28年度事業予定

主な事業(要約)

- 1.「新年賀詞交換会」 中野区経済4団体共催(平成29年1月)
- 2.「総会」 第36回総会開催(平成29年6月)
- 3.「理事会」 年4回開催
- 4.「役員会」 年8回開催
- 5.「委員会」 ①組織改革委員会 ②広報委員会 ③政経委員会
④事業研修委員会 ⑤産業施策委員会
- 6.「労働保険料」 第1～第3期 納付予定
- 7.「区長との懇談会」 経済4団体会長
- 8.「講演会」 各委員会より要望により実施
- 9.「要望書提出」 中野区長、中野区議会議長に対して
国(自由民主党)東京都(東京都産業労働局)に対して
- 10.「協賛・共催・後援」 年9回開催

平成28～29年度役員紹介

顧問	松本文明			
会長	溝口秀二			
副会長	石井正幸	五味道雄	佐々木洋文	佐藤光男
	鈴木芳久	高村慎一	高山義章	鳥居憲夫
	内藤 亘	中山典隆	正村宏人	宮島茂明
	横山啓之			
相談役理事	麻沼雅海	石井卓爾	戸矢崎哲	西見一郎
常任理事	飯田又右衛門	鎌田政明	黒澤功記	杉山正道
	鈴木宏佑	田中淳正	西見元雄	堀井昭子
	松本武男	柳 萬治		
会計理事	赤星義彰(一般会計)		鈴木照男(労働保険会計)	
	宮島茂明(印鑑保管)		辰巳正文(印鑑保管)	
監事	矢澤勝英(一般会計)		安達七郎(労働保険)	
	齊藤謙治(一般会計)		高橋かずちか(労働保険)	
新任理事	赤星義彰	岡崎伊佐央	高橋理昌	玉井重敏
	都 政成	米持大介		

(五十音順)

講演「統計データで読み解く中野区のまちづくり」

中野区都市政策推進室中野駅周辺計画担当副参事 石井 大輔

「中野のまちづくりの経済効果を語ってほしい」。これが当初の講演依頼だったが、どの範囲で経済効果を弾くか、そもそも算出根拠となる投資額が出ていないところで、「どうしたもんじゃろのう」と悩んだ挙句が今回の講演内容だ。人口・産業の推移は、社会経済の動向や官民における投資等を反映したものであり、シュークリーム1個で若手の力を借りながら分析してみた（文句は言われたがよいトレーニングになったに違いない）。ここでは講演の中からいくつかご紹介したい。

1. 商業・工業地域は約22%

中野区の用途地域の商業及び工業地域の割合は、商業系20.11%、工業系1.74%と合わせて約22%、住居系割合は約78%で世田谷、練馬、杉並、目黒に次いで5位である。用途地域と都市開発については御会の議論に上がるため、前提としてお示ししたものである。用途地域の見直しは地区計画（都市計画）で行うこととされ、最近では中野駅南口一帯の地区計画にあわせて、再開発エリアを住居系から商業系に変更し、容積率も増やしている。

中野区のGDP	
・ 国民一人当たり名目GDP：400万円	▶ 3%相当：12万円
・ 中野区人口（2016年4月）：323,688人	
・ 中野区GDP：1兆2,947億5,200万円	▶ 3%相当：388億4,265万円

新しく生産された商品やサービスの付加価値額（GDP）を増やすには・・・
一人当たり12万円分の生産性を上げる⇒国際競争力
1万人分の人口を増やす⇒都市間競争力

2. 減る事業所数、増える従業者数

経済センサスのデータを平成21年と平成26年で比較すると、事業所数は約13%減少しているが、従業者数は約1.9%増加しており、中野四季の都市（まち）に立地する中野セントラルパークが大きく影響している。従業者数の増減をランキングでみると、増加の4位に飲料等製造業、6位に保険業、8位に映像等制作業が入っており、いずれも中野セントラルパークに移転した企業を反映したものと考えられる。

3. 人口増加率の1位は東中野五丁目

平成18年と平成28年における町丁目別人口の増減率をランキングにすると、増加率の1位は東中野五丁目である。次いで中野四丁目、東中野四丁目、上鷺宮三丁目、東中野一丁目と続く。東中野エリアは山手通りの拡幅によるマンションの建設が増加要因といえる。中野四丁目は早稲田大学の学生寮が、上鷺宮三丁目は社宅跡地のマンション開発が要因である。区全体では10年間のトータルで約1万3千人、約4.5%人口が増えている。

4. まとめ～地域のGDP増加に向けたまちづくりの3つポイント

1つは「インフラを整備し、投資しやすい環境をつくる」ことである。道路や鉄道駅の整備を契機に、マンション開発など民間投資が行われる事例が統計から読み解けた。2つ目は「安心・安全が価値を高める」ということであり、中野区は依然として災害危険度が高く、木密対策や無電柱化が必須である。そして3つ目は「生産、所得、消費の経済循環」を生み出すことであり、産業政策とあわせてまちづくりが求められる。これから区内各地で進展するまちづくりは、中野区を「儲かるまち」に変えていくチャンスである。産学公金が連携して知恵を寄せ合いながら、中野区のGDP増加に向けて取り組んでいきたい。

GDPを増やすには	
・ インフラを整備し、投資しやすい環境をつくる	▶ 道路・交通環境 ▶ 開発誘導
・ 安心・安全が価値を高める	▶ 木密地域整備 ▶ エリアマネジメント
・ 生産⇒所得⇒消費⇒生産・・・の経済循環	▶ 人口動向をビジネスチャンスに ▶ ICT活用、多様な働き方で生産性を上げる

【参考資料】 http://kousankai-nakano.jp/pdf/kouen_20160608.pdf

岡山県姫路市 姫路駅前再開発地区並びに国宝姫路城 視察研修報告

副会長 佐々木 洋文

当会では会員事業者の皆様のご要望に応えるべく、平成26年度から、事業所の建て替え問題や産業振興を目指したまちづくり施策に詳しい小林正美氏（明治大学副学長、建築学博士、建築学部教授）を顧問に迎え、具体的な行政への要望を進め、特に平成27年度には「中野のまちづくりを考える会」を新たに設立、小林氏のアドバイスをしつつ、10回以上のセミナー検討会を企画実行致しました。

その過程で過年小林氏が中心的に企画調整設計を行った兵庫県姫路市の姫路駅前再開発事業が、地域合議型の成功事例として高い評価を得たものであり、わが中野区の今後の再開発にとっても参考となることが明らかになり、今回視察団が結成され平成27年11月5日・6日に視察が行われました。

初日は、姫路駅到着後まず姫路駅から再開発された周辺施設全体を皆で徒歩にて視察しました。その後、講師としてお招きした姫路市都市拠点整備副本部長、姫路商工会議所専務理事、姫路市商店街連合会会長の皆さんから、これまでの再開発の経緯と市民・地域事業者・諸団体を巻き込んで当初の再開発計画が大きく練り直されていった経緯と合議の手法について詳しいご説明をお聞きし、活発な質疑応答が行われました。



ホテルチェックイン後、夕食懇親会を開催、昼の部の講師の他に姫路市青年会議所のリーダーも加わり、熱意あふれるまちづくりのあり方について突っ込んだ議論と意見交換が行われました。

翌日は、姫路市の中心的施設であり5月に平成の大改修を終えたばかりの世界文化遺産・国宝姫路城の視察を行い、今回の再開発の実施に貫かれた哲学、すなわちそこで生活する市民、そしてそこを訪れる多くの観光客、双方への細かな配慮の結果としての実態について視察し、今回の視察団は現地解散となりました。

中心市街地の再開発は、その自治体に住み続ける住民、事業を営む商工業者と勤労者、まちを訪れる訪問者のそれぞれにとって将来に大きな影響を与える不可逆の大きな事業となります。

従来の再開発事業は、役所が中心的な企画方針を組み、一部の都市開発の専門家や開発事業者から出されるプランを土台として計画と称し、一通りの行政手続きとして議会説明や地域説明会を開催して了解を得たとして進められたものがほとんどでした。

姫路市の再開発も当初は同様の過程から始まりましたが、地域住民・経済諸団体がその案を見直したところ、様々な問題点や不都合な点があることに気づきます。そこで彼らは開かれた議論の場をプロデュースし、都市再開発の専門家をアドバイザーとして招き入れ、解りやすい選択肢の提示や視認化しやすい方法で自分たちの提案を市当局にぶつけて行き、地域放送局での公開討論等の方法で市民全体にプランへの理解と議論する土壌を生み出していきました。その結果、市民と地域事業者・勤労者、議員、行政職員との相互理解が大幅に進み、様々な新しい取り組みが民・産・官・政の協力で生まれ続け出しているそうです。



まさにこれこそ我々中野区民と区内事業者が望む「未来のなかの」の形ではないでしょうか。今後中野区から示される再開発の姿に対し、多くの皆さんで案を再検討し、われわれの意見をまとめ、将来の世代のために要望し協議していく努力を重ねましょう。このたびの我々の視察に対し、広い心で協力・アドバイスしていただいた姫路市のすべての皆様に対し改めて感謝を捧げます。

小林教授のまちづくり報告

副会長 高山 義章

【はじめに】

現在、中野駅周辺の再開発や再整備が各所各様に進められています。こうした状況では、当地区全体のコーディネートやトータルマネジメントなどの主体的な連動が無いまま、個々に進められる点が大きな問題と認識されています。

そうした中、将来の中野のあるべき姿を描きながら、実現化に向けたプロセスを導き出すために、中野の経済界は足並みを揃え、意見統一を図りながら、明治大学工学部教授小林正美先生のお力をお借りして、昨年2月に中野区長への要望書を提出しました。

そこには、中野の将来をどのように描くかは、地元住民や区民も行うことが必要であり、誰にでも開かれたフラットな関係で情報交換や学ぶことのできる環境や場（プラットフォーム）の必要性を提言しています。

昨年6月には、「これからの中野のまちづくりを考える会」の発足に至り、本年4月までの「まちづくりの活動」を重ねてきました。

【組織の概要】

中野の経済界5団体（東京商工会議所中野支部、中野工業産業協会、中野法人会、中野区しんきん協議会、中野区商店街連合会）が「中野のまちづくりを考える会」を2015年6月に発足しました。先の要望書でもお力添えいただいた明治大学の小林教授もこの会の「アドバイザー」になっていただいております。

【具体的な活動内容】

昨年6月から本年2月まで計7回の勉強会とワークショップを開催致しました。

まちづくりに関係する各方面のプロの方々に講師にお招きしご講演をいただいた上で、後半は参加者全員によるまちづくりワークショップを積み重ね、駅周辺地区の区民案づくりを進めてきました。

また、9月と3月にはまちづくりシンポジウムを2回開催し、2016年4月には石破茂地方創生担当大臣の特別講演が実現致しました。

その他、兵庫県姫路市JR姫路駅北口の駅前広場等の先進事例の視察も実施しています。

【文化と出逢うまちづくり】

これからの中野のまちづくりには、「文化の醸成」のスタンスが必要です。今やサブカルチャーの発信基地として多くのメディアに取り上げられている中野ですが、その面だけの思いのみでは、中野をさらなる魅力あるまちに醸成し、注目を浴び続ける状況を継続していくことは不可能です。

多様な価値観が交錯するこの中野では、多彩な文化・芸術が今以上に交錯し、相乗効果し合っ



そ、中野独特な文化がより奥深くなると考えます。

中野のまちをつなぐ多彩な文化・芸術・アート・カルチャーは、梅若流能楽を初めとした伝統芸術から、サブカルチャーと持て囃される新興文化、そして生の文化と呼ばれ、文化・芸術の一つとしてヨーロッパでは確固たる位置づけをされているアール・ブリュットのそれぞれのウネリ、そのウネリが中野のまちをつなぎ、まちを育てそして、人をつなぎ、心をつなぐまちに拡散する事でしょう。

今後このまちに創造されるアートシーン（発信基地）は、点・線・面の活動の場となり、互いに共感・共鳴し合っ中野の文化をさらに奥深くするに違いありません。地域に根付き、600年超も生き続けるかつての新興文化とでも言える日本の伝統芸能である梅若流「能楽」から、多くの事象を学び取ることが可能であると共に、これから先、もしかしたら500年後に、中野で生まれ息づいている現代のサブカルチャーなるものたちが、新たな伝統芸能に姿を変えているかもしれない状況をイメージしながら、そんな育成～醸成～覚醒が中野というまちには、温室効果やインキュベート機能として根付いており、そこに中野が評価されるキーポイントがあると考えます。



【今後の活動の方向性】

中野エリアマネジメント協議会の設立は来年3月を目標に検討や呼掛けを行いながら、まずは任意団体の設立から始め、その後一般社団法人機能の導入や具体的な活動・基金や資金の手当て等を検討していくことを目指しています。

【提案事例】

3月19日提出の中野区長への提言書を参照ください。

【まとめ】

これからのまちづくりは、まちを組立てるソフトとまちを創造するハード、そしてまちを育てあげるエリアマネジメントの導入が重要であると考えます。

【最後に】

こうした活動の成果として2016年7月7日には、昭和24年から地元中野で「梅若能楽会館」として活動されている梅若家主権による能楽の公演が、「文化と出逢うまちづくり」をテーマに国立能楽堂で行われたことは、文化と共に醸成するまちづくりの実践が、着々と歩みだしたことを物語るものであります。

今後は、2016年7月末に決定される予定の「区役所・サンプラザ地区の再整備実施方針」にエントリーし、具体的な検討に関わる事業パートナー（民間デベロッパー等）も協議の対象と考え、より具体的な中野エリアマネジメント協議会の設立に向けての動きを更に加速させたいと考えております。

【参考資料】 http://kousankai-nakano.jp/pdf/machidukuri_20160518.pdf

